

共同アピール（案）

首都圏・中部圏・関西圏を67分で結ぶ、新たな国土軸である「リニア中央新幹線」は、我が国の広域交通体系のみならず、政治、経済、文化をはじめとして、国民生活に劇的な変化をもたらすものであり、そのルートは、事業者の採算性、利用者の便益、地域経済、観光振興その他社会的影響等を総合的に評価し、国全体にとって最も優れたものが採用されるべきものである。しかしながら、昭和48年に「第二東海道新幹線」として基本計画が決定された時から今日に至るまで、名古屋・大阪間ルートの定量的な比較分析は行われることなく、平成23年に整備計画が決定された。

日本文化の中心地である京都が、日本国内のみならず国際社会において期待される役割を果たし、また、文化、学術、産業、経済、観光等の分野で大きな飛躍を遂げることは、我が国の未来にとって必要であり、そのためには、「リニア中央新幹線」は、京都を通るルートにより整備されるべきである。

また、現在のJR東海の整備案では、平成39年（2027）に東京・名古屋間を先行開業させ、それから18年後である平成57年（2045）に東京・大阪間の全線を開業するものとして計画が進められているところであるが、関西全体の活性化はもとより、「リニア中央新幹線」の整備効果を最大限発揮させるためにも、東京・大阪間の全線一体開業と関西国際空港へのアクセス改善が不可欠である。

京都府中央リニアエクスプレス推進協議会は、オール京都の体制で、次の事項の実現に向け、国等に対し強力に活動を展開するものとする。

- 1 新たな国土軸となる「リニア中央新幹線」のルートは、日本全体にとって最適なルートで整備されるべきであり、「観光立国」の実現に京都が果たす役割の重要性を踏まえ、名古屋・大阪間のルートについての定量的な比較分析を早期に実施したうえで、「京都駅ルート」を推進すること。
- 2 「リニア中央新幹線」の整備効果を最大限発揮させるために、東京・名古屋間に遅れることなく、東京・大阪間の全線を一体的かつ早期に完成させるとともに、関西国際空港へのアクセス改善を図ること。

平成24年9月4日

京都府中央リニアエクスプレス推進協議会